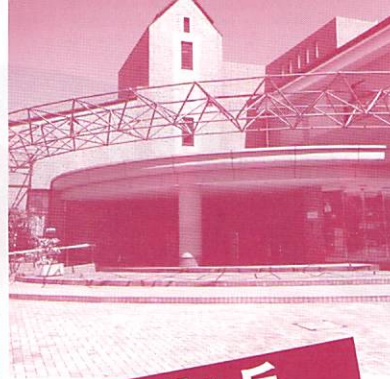


唐木田



東寺方



聖ヶ丘



豊ヶ丘

わたしたちの願いが市にとどき

# 地域図書館 廃止から 「存続」へ



多摩市は、この7～8月に【公共施設の見直し方針と行動プログラム・更新案】の市民説明会を、市内3か所で実施。その後、市内4か所での「地域説明会」が開催され、その中で、「地域図書館の存続」を確認する重要なやり取りが交わされました。地域図書館の存続を願うわたしたちの声を継続して届けていくことが大切です。

## 聖ヶ丘図書館

何とか存続させて行こうと内部検討している。(8/31)

## 唐木田図書館

市としてはコミセン内に図書館は残し、プラスアルファとして地域サービスという観点で高齢者の居場所や相談機能等を考えている。図書館本館と地域館との役割分担を考えるタイミングでこういった機能を付加していくかを考えたい。(10/5)

## 東寺方複合施設の図書館

大規模改修予定のH35年までは現状通り存続。H32年くらいから、周辺環境の変化を考慮しながら、市民のみなさんと一緒に考えていく。(10/13)

## 豊ヶ丘複合施設の図書館

当面存続。本館建設と図書館全体の仕組みを見直していく中で、H34年の施設大規模改修の時期までに、市民と対話を行いながら検討を続ける。(10/22)

多摩市民による  
市民の情報紙

No.2

2016年11月発行

## これからも図書館のあり方を考えよう

大切な地域の公共施設の存続を求めて活動しています。

豊ヶ丘複合館存続の会 東寺方複合館の存続を考える会

聖ヶ丘図書館の存続を考える会 唐木田図書館の存続を考える会

編集・発行は  
4団体共同



# いつでも どこでも だれでも 利用できる図書館を

多摩市の図書館は、予約受付や個人貸出冊数というサービスでは、同規模の全国市町村のなかでは1、2位という実績があります。貸出冊数は、地域館・拠点館で80%近く占めるというのが多摩市の特長です。

この6月、教育委員会は「多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会」（委員長：柳田邦男氏）を設置しました。策定委員会は、本館再構築（本館に必要な機能と環境）及び基本構想（地域館・拠点館のあり方、図書館ネットワーク）について検討しようというものです。そして、市民団体、図書館関係者、市の行政関係者など広くヒアリング（情報提示・意見交換）を行い、来年1月初頭には基本構想（案）をまとめる予定です。

これまでの実績や特長、ヒアリングが活かされた「構想」の策定となるよう、見守り、意見を表明していきましょう。

## 地域館が生きる図書館ネットワークを 《策定委員会ヒアリング》

### 市民団体ヒアリングから

- 中央館を補完する地域館ではなくて、地域館を支援する中央館、という図書館システムでありたい。
- 嘱託職員の待遇について留意してほしい。専門性が育つくみも考えたい。
- 利用者懇談会を図書館地域館別に定期的に開きたい。
- 唐木田図書館を利用しているが、市の直営に戻してほしい。

### 図書館職員研究会ヒアリングから

- 地域館が多摩市の良いところだと思う。再編整備の流れで閉館していくかもしれないと諦めていたが、地域密着が図書館の大切な要素だと思う。
- 「日常」使いやすさ。安心して日課のように毎日通える。子どももお年寄りも足を運べる。「近さ」が必要。こまめに通うことにより、色々な本に触れ人生の糧を得る、視野を広げる。
- 地域館の存在はデータだけでは計り知れない。本を介して人と人のつながりが求められている。地域の環境（新たな図書館）が変化しても地域館は「心のふるさと」の役割を担っていかなければならないと思う。高齢者にとって身近にある生涯学習とコミュニケーションを得る場所であると思うので、この2点は求め続けられる。

### \* 策定委員会

が開かれています

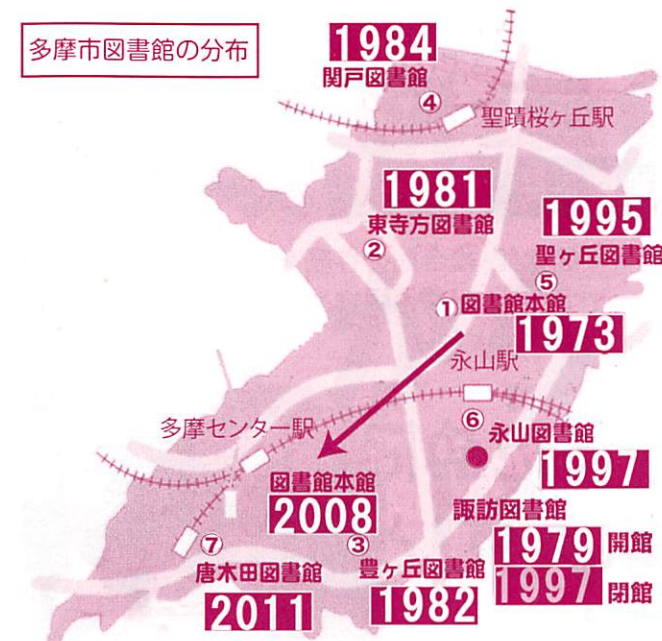
第6回：11月20日

第7回：1月7日（2017年）

（詳細は、図書館ホームページ）

傍聴し、審議を見守りましょう。

## 多摩市は、地域図書館を大切にしてきた



多摩市の図書館は、1973年に市役所隣のやまばとホール、公民館と複合で開館し、翌年には自動車図書館「やまばと号」が運行されはじまりました。児童サービスを大事にし、東寺方、豊ヶ丘、関戸、聖ヶ丘、永山、唐木田の順に整ってきた7館体制は左の地図のとおりです。

中央図書館施設計画の検討は、1981年の第2次多摩市総合計画で中央図書館と7地域の8館構想が計画されてからはじまりました。

1990年に多摩市は「多摩市立中央図書館基礎調査報告書」を出しました。ここでは、中央図書館の建設は緊急を要するとし、その第1の理由に地域図書館のサポートをあげています。そして、「多摩市に図書館があるというのは、市の中央に一つの図書館という建物が存在することではなく、多摩市の市民全体にサービスがゆきわたるようになっていること」だと言っています。

この報告書の後も、館長名で発刊された中央図書館建設に向けての構想案（1992）や、図書館協議会の中央図書館機能およびその整備のあり方についての答申（2010）で地域館のバックアップやつながりが謳われています。ところが、2013年の「行動プログラム」では、地域館4館を廃止する3館構想に変えられてしまいました。

### \* 基本構想原案

が示されます

- ▼市民意見交換フォーラム  
12/3(土)PM6:30より  
永山ベルブホールにて開催
- ▼パブリックコメント募集  
11/26(土)～12/16(金)

意見を表明しましょう。

こうした意見が積み重ねられていたのになぜ、2013年「行動プログラム」策定時に3館構想が打ち出されてきたのでしょうか。





# 「施設の配置や機能の転換」ってなに？ まだまだ大きい行政とのギャップ

## 行政の提案

・図書館全体の仕組みを見直す中で必要な図書館サービスを精査しながら残していきます。  
・高齢者の居場所や相談機能等として、地域包括支援センター等の併設を検討します。



## 私たちの懸念・要望

今後ますます大切さを増す地域包括支援センターを、地域館の蔵書の一部を本館に集中させ、空いたスペースに設置で、ほんとうに地域住民の暮らしに役立つのか、ひろく市民の意見を聞くべきではないでしょうか。

## 聖ヶ丘図書館・唐木田図書館

## 豊ヶ丘図書館・東寺方図書館

それぞれ6年後と7年後の大規模改修の時期まで市民と対話を行いながら検討を続ける。



図書館・複合館の存続を明確に打ち出すべきです。サービスの内容や運営体制は市民の声を生かすべきです。

多摩市は「市民と話し合って」というが…

大切な施設を守るために  
私たちの声を届けることが  
ますます重要に！



多摩市の最高規範の自治基本条例にもとづき、地域図書館・複合館を残したいという市民の意思を受け止めてください。



## 地域図書館・複合館存続へ——これまでの経過

2013年 11月に「公共施設の見直し方針と行動プログラム」が策定される。

図書館本館の整備にあわせ、唐木田・聖ヶ丘図書館の廃止、東寺方図書館は(仮称)和田・東寺方コミュニティセンターの建設に合わせて、東寺方複合施設とともに廃止されることが示される。豊ヶ丘複合施設は平成34年度に建物を廃止することが示される。

2013年 「豊ヶ丘複合館存続の会」が結成される。

2014年 「東寺方複合館の存続を考える会」、「唐木田図書館の存続を考える会」、「聖ヶ丘図書館の存続を考える会」が結成される。

・4団体が陳情や要請署名を15000筆以上集約し、市へ提出した。

連絡先	豊ヶ丘複合館存続の会 代表 大橋 慶一 042-202-0246 yoshi@ohashi.name	東寺方複合館の存続を考える会 代表 齊藤 仁 042-373-8594 terakatasonzoku@yahoo.co.jp	聖ヶ丘図書館の存続を考える会 代表代行 厚芝 麗子 042-376-9624 r_atushiba@hotmail.com	唐木田図書館の存続を考える会 代表 中江 智明 042-371-3085 nakae_0912@yahoo.co.jp
-----	---	--	--	--

「市民情報紙」発行のための募金を募ります。名義:多摩市の地域図書館の存続を願う会 代表者 厚芝麗子  
ゆうちょ銀行 10190-80311811 他行から振り込む場合、店番 018- 普通 8031181